

# 中川根ふる里通信

## = 第 51 号 =

編集・発行・モアラブ中川根  
 連絡先 〒428 0313  
 静岡県榛原郡中川根町上菅尾 859-6  
 中川根ふる里通信係  
 TEL 0547-56-0015  
 郵便振替口座 00870-4  
 -81556



大札山に ことしも春を告げる花  
 アカヤシオが美しく咲きました。

# 第50回 全国植樹祭が 5月30日、

静岡県、天城湯ヶ島町で開催されました。

そして、「県民参加の森づくり宣言」が、中川根町文沢の杉山嘉英さんによって伝達されました。

とても素晴らしいことですから、紙面よりお届けします。



五月晴れの良き日に、天皇、皇后両陛下のご臨席のもと、総勢一三、〇〇〇人の参加された全国植樹祭、天皇陛下のお手植えはヒメシヤラ、お手播きはクヌギ、皇后陛下のお手植えはヤマボウシ、お手播きはコナラでした。

## 開催テーマ

### 未来のあなたへ 緑の風 おくります

#### 趣旨

みんなの力で森をつくり、育て、こうした森づくりの輪が国内外へ広がって、緑に包まれた美しい地球が未来へ継承されることを願っています。

## シンボルマーク



I love a tree

いーうんたーぬ

ポフ・キコロッパ

#### 趣旨

人と森林・自然との共生を目指し、楽しく、みんなで森をつくり育て、小さな緑が、人の心と大地に育ち大樹となっていくことを願っています。

未来のあなたへ 緑の風 おくります  
 県民参加の森づくり宣言

林業家として

私たちは、林業を通じて深く森と係わってきました。その森が多くの  
 人々の生活や文化を支えていることに誇りを持ち、森林を守り育てて来  
 ました。しかし、山村経済の不振で、先人たちが育て上げた森や、暮らし  
 の中で受け継がれてきた知恵や技を、次代に引き継ぐ事が難しく  
 なっています。

この森林をこれからも守っていくには、日々の暮らしの中で、森と人、  
 人と人がもっと付き合っているような流域社会を創り、その中で、新  
 たなシステムづくりを進めることが必要です。

私たちは、これからも森が働きかいいのある仕事場であり、生き生きと  
 暮らす場所でありたいと願います。

豊かな緑の中で、人が暮らし、人が集う。そんな次の世代の「森林」の姿  
 を思い描きます。

杉山嘉英 中川根町文沢在住

森林ボランティアとして

私たちは、今、富士山の自然の森づくり活動に取り組んでいます。

森は、動物や植物、鳥、昆虫などの生きものの生活の場であり、また水  
 を蓄えたり、空気をきれいにしたりして、なくてはならない大切な働きを  
 しています。

森づくりは、時間と手間、それに長い年月がかかりますが、年配の方  
 でも、若い人でも誰にでもできます。

次の世代の人たちに引き継いで頂くためには、今、私たちが、  
 取り組まなければなりません。

私たちが森づくりを続ければ、森は楽しみや恵みを与えてくれ  
 ます。これからも、多くの仲間と一緒に心の豊かになる森づくりを  
 続けていきたいと思います。

仁藤 浪



平成九年度、十年度と二年間に渡り、静岡大学教育学部島田附属中学の生徒諸君が川根路を訪問して、地域の様子も学習していきまされた。「生涯学習」も遠足もあそびの感も多分にありましたが、面白い交流ができました。そして、感想文集が出来上りました。若い目から見たり感じた川根は？いかがでしたでしょうか。

ご紹介したいと思えます。

人の戻るべき場所 田中 竜 輔

半年間の川根での生涯学習を終えて、一番感じた事は題字にあるような事です。今、何もかも機械化、デジタル化、大量生産化と、それぞれ悪い事でもなく、大切な何かを欠けている気がします。そんな中、川根地域は先程書いた事が充実していると言いつらいですが、大切な何かを持っていると思います。先ず一つは、豊かな自然だと思えます。野守の池や川根町葛籠などで都会やそと側の町では見られない景色がありました。それでも、野守の池などは、ソウキョ等の問題もあつたと聞き、それらの自然にも川根の人達の協力があつてこそだと感じました。

まず、やはり川根と言えは、川根茶だと思えます。明治時代ぐらいいから始まった、お茶の生産加工競争により、多くのお茶が生産できる様になったりと、いい意味の機械化になっていっていると思えます。

茶茗館ではおいしい新茶をいただき、素のままのお茶のおいしさを味わいました。諸田製茶さんでは、お茶

のつくた煮やジャムといった新しいお茶の味を知り、正直おどろきました。

こうした自然の物から新しいものを創り出す姿勢はやはり大事だと思えます。

三つ目に鹿ん舞、ヒヤイ踊りなどの多くの神樂等の民俗芸能がある事です。日本に生れ、日本独自のこうした民俗芸能はやはり人の心を落ち着かせると思えます。実際見た事はありませんが、やはり伝統と言ったものは、とても人々のくらしに大事なものと感じました。

始めにも書いた事ですが、人は前に進むだけで生きてゆく事が全てではないと思えます。例えは、ほとんど健康ドリンクなどの開発が進む中でも、元巨人軍の落合遼手は、昔ながらの川根の炭の力を使っています。

少し表現はうまくなかったですが、人が求めているものは、最先端の物のほか、少し昔の女らしさを得る物だと思えます。そういった視点から見ると、川根地域の文化や自然はこれからも、人々の生活に大切なものになると思いました。

人の戻るべき場所、川根、そう言っても過言ではないと、僕は考えました。

大井川について 筒井麻里子

今でもはっきりと目に焼きついている一枚の風景。自然の美しさを自分の身でもって感じました。深いコバルトブルー色をした大井川を見たとき、私はおもしろい息をのんだ。私の意識の中ではあまりきれいな川ではなかったのに。奥大井湖上駅から見たその風景は、自然の大切さを私にわがらせた。この風景をいつまでも



残しておきたいと痛切に感じました。

最近の大井川の水は、はつきりいってあまりきれいでないし、水も少しか流れていない。工業用水、様々な公害問題もあると思う。でも、それよりも私達人間の、川を大切に考えるというのが薄いのではないでしょうか。きっと大井川は昔むかしの古代からずっと使われていた水の宝庫であったろう。それを昨今数十年で今の姿へと変貌させてしまった。このままではますます悪くなる一方である。

これは地球の自然すべてに言えることだと思います。オゾン層の破壊、砂漠化、熱帯雨林の減少、まだまだあげたらきりがありません。Mother Earth 母なる大地にもっと優しさをもって接していかなければいけない。その小さな小さな一片かもしれないけれど、大井川だって同じことが言えるのではないかと思う。

失ってからでは遅すぎる。この自然の大切さ。私の見た風景はお金じゃ買えない。破壊されたら取りもどすことなんてできない。自分には何ができるのかよくわからない。何もできないかもしれない。この生涯学習を通して、自分だけですぐが感覚的に何かがつかめたような気がした。変化していくこの地球の上で変えてはいけないものを。私は見つけることができた。感じる、ことができた。確かめることができたと思う。

最後に、私達はたくさんの人達の協力を得て、この生涯学習を行うことができました。今もう一度その人達にお礼を言いたいと思います。本音にありがとうございす。

## 生涯学習を通して 柳川孝介

生涯学習、それは自分に何を与え、自分の中でどの様な形、あるいは物となったのだろうか。

自分は川根に行き、沢山の体験をすると共に、様々な考えや思い、感想を持った。そのどれもが、自分の地域では体験できない新鮮なものであると同時に、様々な意味で自分にプラスになったのではないか。

第一印象での川根から。川根では良い悪いではなく、奥の深さや質が変わっていたのだった。施設が整っていない、人口が少ないだけで漠然と田舎となるのだろうか。

川根はとても良い意味での田舎なのではないだろうか。自然が多いだけでなく、人々の目に見えぬ努力、温かさ、その地域だけにしかない独特なもの、それそれが自分の目には美しく見えた。

ある意味で、都会よりも発達しているのではないだろうか。その良い部分をもっと外にアピールし、伸ばしていけば、もっと素晴らしい川根が生まれるのではないだろうか。

自分が住んでいる地域、また、人それぞれが住んでいる地域には必ず他に匹敵、またはそれ以上のものがあるのではないか。

地球の大切さ、素晴らしさを、様々な体験を通して感じとる、ことができた生涯学習。この体験は、今後の自分の生活や地域活動等にもとても良い影響を与えてくれた。

# 一期一会

忘れられぬ平成九年三月三十日の宥のことである。「ハールポップ彗星接近」の報に、透折四年目の跋の老妻を背負いて庭先に出た。三十キロの瘦軀は子供のようになく、吾が脚は悄然として重かった。

北西の宿閣に眼を凝らすと驚いた。お碗程もあろう大きな流星が帚のような尾を引いて、キラキラと輝きながら今まさに山の端に入ろうとしている。余りに見事な星に吾を忘れて歓声を挙げた。

再会は二千年後とか。地球上に生けと生けるもの、凡て一期一会の大彗星、しかも別れのサインを送るかのように、キラキラと瞬いている。

背中の老妻が狂気したように、「さようなら、さようなら」と手を振りだした。突然、首筋に暖かいものが



ニ、三滴落ちてきた。「あ、涙だ。」喜んで

いるのか、悲しんでいるのか解からない。長い間の闘病を思い併せ、老骨の頬にも夜の帷を幸いに、幾筋かの熱いものが、滴り落ちた。今、消え去ろうとするものに対する日本人の美意識の片鱗を意識させられた思いがした。

\* あーなえの負われて出、庭の閣

ハールポップが山の端をゆく

\* 尾を引き、ハールポップはキラキラと

永久の別れを惜しむがごとし

\* サイン送り情熱燃や、去る星に

一期一会の別れ惜しみぬ

子供のように感動に老妻も間もなく素朴な短歌に心を託して旅立っていった。

亡妻の常に口にした「預かりものの体」を神に返して昇天し、今は小さな星となって必死にハールポップを追いつけている頃だろう。

「生者必滅」「会者定離」凡ては一期一会。三月三十日が近づくと、過ぎ去りし者への美意識の幻想に駆り立てられながら、夜空を仰ぐ今日この頃である。

藤川 高本 鷹一 (独居 84歳)



写真上、3月30日山の端へ入ろうとする、ハールポップ彗星。  
下、平成9年6月14日撮影  
高本鷹一さんと、多喜子さん。

高本さんは、「人の一生斯くありたい」と理想するすばらしい人生を築き上げられた方です。奥さんが、平成五年十二月三十一日にたおれられ入院。九年十月三十一日、来世へ旅立つまで、一三ハロ日間、ご夫妻二人三脚で病氣と闘ってこられました。人工腎臓透析も五五〇回、中川根から島田の病院までの通院も本当に大変だったと想います。

その間、闘病(看護日記(体温、血圧、グラフから病状記録))は一日も欠かす。又奥さんは闘病の記録を短歌に詠みました。そして「遺歌集」こすもすの花が、高本さんも子供さんの手でつくられました。闘病の生々しさから家族愛のすばらしさを感じる歌集です。

こすもすの花



はなびらきいささきさきしゅももす

あざうらみにしほのたのしさ

とやかにいほにゆれうこすもすの

はなはまた逢うむらばすれのみち

あたい空けたくはそるすもすに

王都のみよへいざなわれゆく

高本さき子



四季の里の藤森文江さんが「食業おこし」奮闘記を出しました。

出版社=農文協、定価 1,600円。

地域おこし、女性起業の具体的な知恵と元気を与えてくれる本です。

ささやかな朝市からスタートして、年間来店者10数万人、売上げ1億2000万円の常設店(有限会社)へ。中山間地で社員・パート20人の雇用の場と、町民500人の出荷の場を生み出した「四季の里」。その成長の秘訣と試行錯誤を、リーダーの藤森さんが、包み隠さず明かす、まさに食業おこしの本。

今、四季の里は、中川根の顔です。藤森さんという素晴らしいリーダーに是非逢ってみて下さい。きっと、皆さん元気が出ますよ。全国書店にてお求め下さい。



藤森文江=著



農文協

## パソコン事始め

静岡市 中道正己

家内の親戚筋で、もう七十才近い方が、「パソコンを始めたい。」と言っていたのを家内から聞いた。「時代に後れるから。」がその動機だ。そうである。それで、パソコンの事をいろいろ聞きたいから、話を聞いてほしいと言われたが、どのような事を話してやれば良いのか、困ってしまった。農家の方で、若い頃からいろいろな役に押されて、活動的な人と聞いてはいましたが、パソコンとなると、勝手に違っています。

まず第一にパソコンで何をやるうとしていいのか判らない。趣味でやるのであれば、それについての手順さえ覚えれば出来る事もある。パソコンの利用の仕方、練習方法も変わってこよう。パソコンの事は何一つ知らなくて良いのである。

しかし、高い性能を持つパソコンの利用方法を発展させて行くとなれば、或る程度の知識が必要になってくると思います。私が今から十七、八年前に、ラジオでアメリカの高校生が組立て、式(キット)のパソコンを作るのが流行している。と聞いた事があった。やがて日本も流行するかも知れないと思ひ、パソコンに付いての知識を持つとうと、適当な書物が無いかと気にかけていた。当時はパソコンショップというものが無く、見つからないであった。ある日、電子機器材店に寄った時に一冊の翻訳本があった。題名が「マイクロプロセッサ」である。この本は後で後輩に上げてしまったので、今手元に無く、著者

の名前が思い出せないが、米国の半導体科学者で、訳者がシャー・P電気の研究所の方でした。

CPUとレジスタのアクセスについてのアーキテクチャで、初めて見る用語が多く、一頁を理解するのがたいへんでした。しかし中には興味を引く面白い事も書かれていたので、当時のノートをしながら、その本に書かれていた内容のごく一部を要約しました。しかし専門用語を要約し、簡潔に書くという事は、初めての事で難しく、判りにくいとは思いますが、中心実に書いたつもりです。

パソコンの心臓部に集積回路の中央処理装置というのがあります。Central Processing Unitの頭文字をとってCPUと言います。この中にALUという演算装置が有りますが、演算装置が有るものをマイクロプロセッサ(MPU)と言います。通称マイコンです。これは初め半導体メーカー、インテル社が、米軍の通信機用の素子として研究開発していたものでした。

ところが、これがうまくなかった。作っても売れず、開発を止めようとしていた。その肩同然の素子に日本の電卓メーカーが目をつけ、最初の電卓を作ったのです。それでその素子が売れ出してインテル社の研究が復活し、しばらくした後、最初の8ビットマイクロプロセッサ8008が誕生した。という経緯があります。マイコンは初めから作ろうとしたのではなく、偶然に出来た。とする米国半導体科学者の話です。

今、インターネットとして、パソコンのネットワークが全世界に広がっていますが、当時の科学者達が、それを当然の帰結としていたかどうか、知る良しも無いのですが、皮肉な事と思えます。



マイコンの進歩は、素子の集積容量に比例していきます。衣服のサイズにS・M・Lの大雑把な規格がありますが、集積回路もそれと同じで、ICはチップにトランジスタ・ダイオード、コンデンサー等が10個ほど回路として組込まれたもの。1000個になるとSS1、さうして増えて行くとMS1。そして大規模集積回路LS1となります。その上か(超)の意味のVLS1で、現在さらにその上の(ウルトラ)ULS1で、10000個のものが有ります。

パソコンの容量はKキロからMメガ、メガからGギギかと果乗倍して来ました。この進歩の速さが、時代の流れを加速させたのかも知れません。パソコンは遅く始めた人ほど、高速、大容量のパソコンを使う事になります。

パソコンでは、ビットという単位を使います。パソコンは1と0の2進数で信号の処理をしますが、ビットはその最小単位で2進数の重みを表します。2を果乗していくと4になり、4が8、8が16、16は32となり、64となってやがて1024になります。これが1Kビットです。4ビットをニブル、8ビットをバイト、と言います。パソコンは基本的に8ビットで英字1文字を作ります。

この原稿はワープロで書いていきますが、書き終わった時点で、原稿用紙ウイザートで約70KB(バイト)です。パソコンの持つ容量のほんの一部しか使いません。現在市販されているパソコンは、6.4GBの容量が普通です。

パソコンは自動車に例えると、以前は、ほとんどの車がマニュアル車でした。しかし、現在はオートマチック車が主流です。オートマチック車で免許を取得した人にマニュアル車の運転はたいへんである。その逆にマニュアル車から

オートマチック車は楽々である。パソコンも同じで、最近のパソコンは自動車のオートマチック車に相当します。今はプログラム(計算手段)がそれぞれ、パソコンの作業について必要のないように、基本ソフト(OS)とアプリケーションソフトが揃っているからです。

基本ソフトとアプリケーションソフトの関係について云えば、基本ソフトの代表的なものがウィンドウズです。基本ソフトはCPUとアプリケーションの由いる通訳のようなものであり、アプリケーションは、使う人と、基本ソフトの通訳である。従って現在のパソコンはこれらの充実で、ワープロとして使う程度なら最初手ほどきを受ければ、文字は簡単で打てるのです。また、表計算のアプリケーショソソフトもあり、係数管理も出来ます。これらは、パソコンを購入した時点で、組み込まれている事が多く、すぐに利用できるのです。

ただし、難点は、操作のコメントにカタカナの英語が多いのです。初めての人は、それを覚えるのに、時間がかかる事になるでしょう。パソコンを始めるには、何に活用するかをまず決めてから、練習の仕方を考える事が、第一歩になるのではないかと思います。

現在パソコンを買った三割の人が、使わず眠らしているのです。(徳山出身)

趣味でやるのであればそれ	家内の親戚筋でもう七十才近	を始めた。と言っていたの	た。時代に後れるから、がそ	ある。それでいろいろ聞きた	てほしいと言はれたが、どの	てやれば良いのか困ってしま	ですが、若い頃からいろいろ	活動的な人と聞いてはいま	ンとなると勝手が違っています。	コンで何をやるうとして	で
--------------	---------------	--------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	--------------	-----------------	-------------	---

寸又峡のおはなし その一  
日かけの天狗倒し

本川根町寸又峡 望月恒一

寸又川(大井川最大の支流、南アルプス光岳や南稜の山々を水源として、沢間付近で合流する、溪谷)最上流の集落、東側、湯山、大間に住んでいる人達は、主に御料林(今は国有林ですが、昔は天皇陛下のお持ちになっていた山)で、造林事業やこの仕事に関連する食糧材料などの運搬や色々な仕事に従事していました。

この御料林のことを地元の人々は、御料と言っていました。面積は約二万六千ヘクタール、針葉樹、広葉樹の混交天然林です。

どこの家でも副業としてワサビを栽培していました。山深いため何と言っても良質の水が豊富でワサビ栽培に適しており、また、御料局にお願いすると沢を借地出来ました。

寸又のワサビはカラ味が強いことで有名でした。

「大間のワサビとおよねのせじは聞けば聞くほど目に涙」



秋の終わり頃より冬にかけて大量のワサビの生産量を誇っていました。申しに通り良質です。ワサビは一番確実にお金にかえる事の出来る作物で、お金が突然、入用の時など、ワサビを掘ってくればすぐに間に合う訳です。



しかしワサビ田は村の近くにもありませんが、一般的には更に山深く入り小屋をかりて、寝泊まりして、掘ったり運搬したりしました。

御料にはたくさん沢があります。サンボイ沢、大沢、印向沢、日かけ沢、キンナリ沢、青ナギ沢、ヨモギ沢、フタ俣沢、逆河内沢、リンチヨウ沢、コクサギ沢(横沢)、カナギ沢、オオミ沢、ハンエモン沢、寸又川の最上流はサワラ沢、大間川の最上流はバラ谷等々御料林が広いので、とても沢山の沢があります。

ワサビは深山ほど良質のワサビがとれます。水質が良いためです。ヨモギ沢などは掘り取ったワサビを家まで持ち込むのに、二日がかりという遠いところ、です。

話は少しそれますが、

寸又川上流の光岳の麓のリンチヨウ沢には、南アルプス南部の登山道を開發した榎田勇作爺の岩小屋があります。冬、この岩穴に寝泊まりして、獵をして捕れた獲物は雪の中に入れて保存したという事です。獵の名人で、この岩小屋は今もあるようですが、今は南アルプス南部光岳森林生態系保護地域に指定され、一般の人には入ることができません。

きません。

さて、ワサビを作っている大勢の人が必ず通る日カケ沢という深い谷があります。Vの字を横にした様な深い山道に入ります。

日カケとは日の当たらない位の深い淋しそうな谷です。ここを通る人が時折不思議な事に出会います。

それは谷底で斧を使う音がします。大木を切り倒します。カタン・カタン・カタン……本当に斧を使っている様な音が谷が深いので、こたましてすごい大きな音になります。

そうしてしばらくするとバサーン！大木の倒れる音がして今にも木の倒れたとおり風がほほをなせるような感じまでします。

しかし、どこを見ても大木の倒れた痕跡はありません。また山の峰で木が倒れるのが見える事もあります。行って見ると木は倒れていない……。

——これを「天狗倒し」と言うそうです。——

日カケの谷は誰が通っても淋しい谷で、不思議な事が多い。また谷底で人の話し声がする……きっと天狗の話し合いでし……う。

そこを通りぬけると板取山に向かってなだらかな経路があります。ブナの原生林の中、すす竹がいっぱい



生えております。俗に「おおすす」といふところでは、

ここにまた不思議な事があります。自分が歩く方向にすす竹の中を誰か平行して歩いている様に、すす竹の中をカサ

カサと音がします。立ち止まるとその音も消える。

また歩き始めるとまたすす竹の中でもカサカサ音がします。……獣でしょうか？しかし、ワサビ田に通う人は、この事には馴れていて、別に気にかけませんでした。

ワサビを専門に運んでくれる人があります。この人達を「持ち子さん」と呼んでいて、木製の杵に荷物をしっかり傳りつけて毎日運んでくれます。土地では木製の杵を「シヨイコ」といいます。雨の日も自分の体も、荷物もぬれない様に、すばらしい方法があります。

この持ち子さんとは山を歩くと大変楽に歩けます。体力を消耗しない内に、一番先にいる持ち子さんの「いっぷく」という休みの合図があります。それは休む距離が一定しているからです。持ち子さんの長い経験からの感じて決める訳です。

また先方に峠のある坂道では必ず坂道の初めに一休みします。普通の人は、坂道を登りきって一休みしようとしません。体に無理があります。その道、その道で色々な歩き方があるものです。

また持ち子さんのツエの先に、鉄製の輪がはめてあり、これを「トチ」と言います。これは杖が減らない様にするためと、もうひとつ大事なことは、ツエの先の鉄が石などに当たってカチ、カチという音がします。この音をききつけた熊や獣が先に逃げてしまします。獣は目より耳が非常に近く、小さな音でも敏感に聞き取れます。天狗倒しに関係して寸又が昔、ワサビの主産地であった事を書き添えてみました。

東京のかたすみから(二十四)  
 〇 テレビの始めから終りまで

よどちようさんのおかげです

渡邊 實夫

私が淀川長治さんこと淀長よどちように初めてお会いしたのは四十年前、「ララミー牧場」の放送が始まった昭和三十五年の夏のある午後であった。テレビ局のエレベーターに乗り合わせた小柄な紳士が、外国映画の解説をやっている淀長さんであることと同僚から教えられた。私は仕事場である三階のマスターへ、彼は四階の映画部へ行く途中だったと思う。それ以来、彼とはたびたびエレベーターの中で会った。映画のことを聞きたいとは思ったが、「オハヨウ、ゴザイマス」と挨拶を交わすこともほとんど無く、もちろん長話しをしたことは一度もなかった。

元来、各テレビ

局とも有名な役者や人気のある出演者が多勢来るが、親しく話しをすることは、担当ディレクターや直接の関係者ぐらいて、他の局員は挨拶を交

わすこともしないのが普通である。

局の作業着を着てぞんざいに乗り込んで、出口に平気で立っている私とは対照的に、彼は何時も、乗ると直ぐ左側奥コーナーへ行き、乗り降りの人に邪魔にならないよう気をつけて立っていた。服装はシックなスーツにワイシャツ、ネクタイや靴がよく合っていた。マナーの良さ、小柄ながら落ち着いた、よく洗練された人柄から受ける感じなど、あのような人を紳士というのかなど、思ったりもした。親しさは感ずるが、なんとなく距離を感じ、私としては声を掛けられなかったことは確かである。テレビ局の現場では見られない実直さと生真面目で礼儀正しい方であった。

彼は昭和三十五年に放送された西部劇「ララミー牧場」、つづいて日曜洋画劇場の解説をやり、テレビの映画解説者の草分けとなった。彼を有名にしたのは、「ハイ、またお会いしましたね」で始まり「サヨナラ、サヨナラ、サヨナラ」の名セリフで終わる約二分余の映画解説であった。

そのころ、私は朝から晩まで「テレビの画像がきれいか、明暗、鮮明さはよいか」など、他のテレビ局より劣っていないか、どうかに気を使い、「悪ければそれを調整すれば良いだけの、放送現場のお守り役のような仕事をやっていた。だから毎週一回放送される「日曜洋画劇場」の解説部分二分半でブラウン管を通して、淀長さんに会っていたのであった。

私の勤務先であったNET(日本教育テレビ)は、開設当初、「教育」がつくゆえに娯楽・演芸とは縁が遠く、おもしろくないとみられたのか、人気がなく、営業成績もわるかった。免許専業であり、郵政当局から保護されて



おなじみだった「サヨナラ、サヨナラ」のポーズ



いるとはいえ、経営は苦しく、社長交替（旺文社社長赤尾好夫氏から東映大川博社長へ）も行われた。

昭和三十年代当初、新橋駅前でタクシーをひろい、行き先をNETテレ、ビへと、麴町のNTV（日本テレビ）へ連れて行かれたという話をよく聞いた。日本テレビの方がおもしろい番組をやり、人気があつて、有名であつたからだろう。当時はプロレスのNTV、ホームドラマのTBSと言われたように、各テレビ局は視聴率を上げるために目玉商品を生み出すのに懸命であつた。

わが局もようやく、淀川さんの登場で外国映画の購入が本格的に始まり、洋画のNETとして名を知られ始めたのである。中継現場や結婚披露宴の席などで、私の勤めているテレビ局を紹介する時に、「日曜洋画のNETです」と言うのと分かつてもらえるようになった。

淀長さんのお陰で視聴率も上がり、局内に活気があつた。そしてテレビ朝日と社名をかえてからも、看板番組として高視聴率を維持し、淀長さんはテレビ朝日のために、亡くなる前日まで、映画の「語り部」としての仕事（収録作業）をしてくださったのである。

今年のテレビ朝日社報一月号は、二ページにわたつて彼への大掛かりな追悼文を載せた。創立以来、このような扱いをされた方を知らない。会社としても貢献度最高とみたからであろう。私は在職中、人事考課表の査定項目にある貢献度とは、具体的にどんなことかと思つていたが、これを見て、ようやくその意味が分かつたような気がした。

彼と親交のあつた、東京大学の学長蓮見重彦氏は新聞紙上で「世界に映画評論家はたくさんいるが、見た映画を身体で覚えているのは淀川さんだけだつた。七十年も前に

見た映画の魅力も、一時間でも二時間でも語り続けては、私達を悔やみながらせたものだつた。先々週、病室にお見舞いに伺つた時にも、一九二十年から三十年代の米国の無声映画の写真集を手にも、ベットに横になつてはいたが、声は元氣そうだつたのに。まさか、こんなになるとは……。」と述べた。

テレビの映画解説を一貫して続け、「サヨナラ・サヨナラ・サヨナラ」と繰り返す淀長節を電波にのせ、昨年十一月十一日に亡くなるまで、三十三年間一度も休まず解説を続けた。死の前日にも出演番組の収録をして、八十九歳で静かに旅立った。三回のサヨナラの意味は、「最初のサヨナラは、おじいちゃん、おばあちゃんに、二番目はお父さん、お母さんに、三番目は坊やにもサヨナラと語りかけているつもりなんですよ」と言つていた。このサヨナラの三句は永久に生き続けると思う。

実をいふと、それまで存在しなかつた「映画の解説」が生まれたのには、面白いわけがある。アメリカから購入した「ララミー牧場」は一時間番組にするには、四分足りなかつた。そこで、CM部の米田喜一氏（今年喜寿を迎えた）は、コマーシャルでないコマーシャルでその四分間を埋めるために、その映画に解説をつけることを思いつき、淀長さんを起用したのである。だから「淀長の洋画解説」の生みの親はまさに米田氏であり、その後三十二年続けてこれたのは育ての親である歴代の映画部長の努力によるところが大きい。

ふるさと夜話

七十年前、君が代を批判した

小沢羽峯先生

原田耕作



戦後、榛原町(当時川崎町)に住んで、静岡民声という週間新聞を発行した中川根町高郷出身の小沢羽峯(うづら)という人物を川根の人達、特に中川根の老境に達した人々の中には御存知の方が、現在も多くいることと想います。羽峯先生は、新聞記者をやったり、小学校の先生をやったりした人です。

羽峯先生は本名吾一、この人を知っている人は多くあった。うが、先生の講演を聞いた人は、極めて少ないではないかと思えます。昭和二年、私が十七歳の時だったと思います。今から七十年前のことです。下長尾小学校で時局講演会を開きました。その節何を話されたか記憶がありませんが、只一つ記憶に残っていることは、現在問題になっている、君が代の歌を批判したことでした。軍国主義華やかな時代、君が代とは天皇陛下の御代としか解して居なかった時代、これを批判するということは、大胆不敵な人だといささか驚いたことがあります。



羽峯先生の言葉は、「君が代は千代に八千代に、さざれ石の……と云うが、こんな歌を唄っているから日本人はさざれ石の様な小さい人間になつてし

まう。さざれ石は固まって巨大な巖には決してなれない。固まった様に見えても、さざれ石はさざれ石だ。一発ドンとやられたら砕け散ってしまう。——こんな講演でした。

その後、日本はどんどんふくれて、さざれ石から巖とも見える国になりました。ふくれるにつれて、政治体制が変り、軍人は政治に関与すべからず、という五ヶ條の御誓文がありながら、軍人が日本を動かすことになりました。

結果、見た目には巖となったが、苔が生える年月も無く、第二次世界大戦でさざれ石とくたかかれてしまいました。当時、異色の人物だと思つた小沢羽峯先生の七十年前の言葉を思い出して、私は感懐ふかいものを感じます。

「困った時の神だのみ」という言葉がありますが、神様はほんとうに困った時、助けて下さるでしょうか。神様が助けてくれるなら、仏様も助けてくれるわけですが、「困った時の仏だのみ」という言葉はありません。



第二次世界大戦の時、「日本は神国だから、神風が吹いて必ず勝つ」と言う人達がありました。しかし、神風は吹きませんでした。吹かない苦です。夜食に困る人達を、戦場に労苦を重ね、命を落とす人達を尻目に、闇取りで大もうけすることのみ考えた人の何と多かつたことか……。



こんな悪怒人のほびこつた日本を助けた神があったとすれば一体神とはいかなるものかと疑います。

無着成恭むしやく せいこうというお坊さんの言葉は、面白いと思いません。神様には絶対があるのに対して、仏様には絶対はない。神様は「天地創造の神は俺一人だ」と言うのに、別の神様が「いや、俺が宇宙を造ったんだ」とかむから戦争になってしまふと言います。どちらも神様のために戦うから聖戦と言います。

しかし、仏様は戦争はきらいです。神様は戦うが、仏様は戦わない。中東、アフリカなど、いつも戦争が絶えないが、みな神を信仰する国です。

明治以降、日本はひたすら軍国主義を国民に押しつけました。国民が仏様を信じてと戦争がいやになる。それでは困るから天皇陛下も生きていく神という事にして、戦争が好きになる様、国民に教育したのでです。

しかし、その好きな戦争の結果、君が代の巖いわは、さざれ石とくだかれてしまふ。当時の天皇は「人間天皇」を宣言されて、神様を廃業、元の人間にお戻りになられました。

話は「君が代」に戻ります。

君が代とは、天皇が日本を統治された時代の事とはかり思つて来た私は、象徴天皇となった現在には、君が代の意味が昔のままでは、何かしら異和感を持たせ、納得の行かない感じがしてなりません。如

何なものでしょうか。

君が代のメロデーは荘重で、郷愁感と相まって、私はいつも涙を催します



が、歌詞については、いささか納得がゆきません。

大正、昭和初期、異色の人物として活躍された小沢羽峯先生の君が代の話、以外、神仏の話も取り込んで、余分のことまで話しましたが、御容赦下さい。

死者に霊あるものならば、今は亡き羽峯先生は、あの世から、現在、日本の君が代論を、如何なる思いで聞かれて居るでしょう。

ふるさと夜話 第二十四話 終

編集室より

今回も原田さんより、熱筆が届きました。毎年、三月頃から四月にかけて、体調をくずされるとの事でしたので、心配しておりました。いつもながら、編集室宛のお手紙も添えられておりました。皆様にもお届けします。

お茶も終りました。今年はこちら(瀬沢)は六分作と言って居ります。私は平成三年の脳出血の後遺症と老境と共に進んで、右手が不自由で、文字がうまく書けません。また文字を忘れる様になりました。ま

ちがった字がありましたら、御訂正下さい。  
ふるさと夜話も、こころへんで、まだ題材はありますが、やめたほうが良いかと思ひました。長いと何でもあまがきますから。しかし嬉しいことに、「おじさんの書いたものは面白いから、もっと続けてくれ」と、もちろんおせじとは判っています。この頃やう言ってくれた人が二人ばかりありました。そんなわけで、今回も賦文を書いてみました。

定期購読のお願い

中川根ふる里通信は有料発行です。

1部 千共 200円

皆様の定期購読が、ふる里通信の発行を支えます。年間4回の発行(季刊誌)を予定しております。今回で購読の切れる方、始めてふる里通信をご覧になれる方には郵便振替用紙を同封致しますから、引き続きご購読をよろしくお願いいたします。

購読を止めたい時や、住所変更のおりも是非ご連絡下さい。

郵便払込通知票 00870-4-81556

加入者名 中川根ふる里通信係

ふる里通信に関する問い合わせ先、及

発行責任者 千428-0313

静岡県榛原郡中川根町上長尾859-6

小沢節子

TEL. 0547-56-0015

SGS静岡放送

うね発見!  
街道から版

毎週日曜 午前10:00~10:30放送  
再放送 7月7日 10:45~

今回の取材は7月4日の放送予定です  
ご協力ありがとうございました

上記 街道かわら版が、  
「ライブ発見!」ということ  
ふる里通信 編集室を訪ねて  
来ました。その他、川根、中川根、  
本川根の様子を7月4日 放映  
されます。おひまな方は、  
見て下さいね。お目にかかれる  
かも知れませんよ。

今回の発行も、春の号が、初夏の号と  
なりました。なかなか挽回出来なくて  
申しわけありません。次回、夏の号も  
お届け致しますから、どうぞおゆるし  
下さい。

緑は了なくすばらしく

皆さんは木々の芽生えから若葉、そして青葉に  
変化して行く「時」を見たことありませんか。  
特にモミの木、シイの木の変身は目を見はります。  
地味ですが、スギの木もとても美しいです。

梅雨入りからこちらは晴れの日は続き、そろそろひと  
ほしい頃です。卯の花も咲き、ホトトギスも託卵の  
場所をさがし求め、螢も境川から平谷、三津間渡の  
あたりに乱舞しているとか、歌詩のとおり  
山里風景に満足感をおぼえる今日この頃です。

赤い花、白い花、ピンクの花、清く美しく、

表紙のアカヤシオ、カラー版でお届け出来なくて残  
念です。こころはシロヤシオが見事でした。ツツジ  
ウツギ、フジと春から夏にかけて、山は花咲かり  
又、桜も長い間、きれいな花を咲かせました。  
今年の新茶は、収穫量大幅減少でした。  
三月の低温、四月の雨続きで、一番茶の収穫は大幅  
に減少し、今年の景気が心配されます。出来ず  
て価格低迷も困ったものです。品不足は、茶産  
地にとって、高価格がついても又困ったものと  
言えます。よう。